

川場温泉 いこいの湯

Kawaba Onsen Ikoinoyu
(群馬県川場村)

ひさしぶりに川場スキー場へやってきた。川場スキー場にはタフなコブ斜面がある。前回来た時はピーカンだったが、今回は大雪。春の湿った重たい雪が20cm近く積っている。板の滑りが悪い雪質だ。「無名峰ダウンヒル」と「無名峰トライアル」では、新雪に隠されたコブが待ち構えていた。かなりの難度だ。やっぱり川場はタフだった。おかげで足はズタズタである。

一方、「パウダー解放ゾーン」も楽しむことができた。通常なら滑走禁止になるような場所である。そこにはスリルが満ち溢れていた。

ちなみに、川場スキー場は見事に初級コースと上級コースしかないゲレンデである。中級者は快適にスピードを出して滑るところがあまりない。

そして、ベースにある駐車場兼スキーセンターが圧巻である。このビルの1階がゲレンデの入口なのかと思いきや、ゲレンデへは何と7階もしくは8階からアプローチする。7階と8階にはチケット売り場、ショップ、レストラン、トイレ、更衣室などがあり、快適そのものだ。ここがスキー場であることを忘れてしまいそうだった。

さて、今回紹介する温泉は、川場村にあるいこいの湯である。川場スキー場から車で約20分。川場スキー場のリフト券提示で入浴料が100円引きになるので、くれぐれもリフト券をなくさないようにしよう。

建物の中は、いかにも田舎の温泉という感じののどかな雰囲気だ。左手が下駄箱、正面にフロント、右側が土産物屋だ。廊下

を奥へ進むと、右側が大きな休憩室で左側が厨房である。休憩室は100人近くは入れるであろう畳敷きの部屋で、ステージまである。カラオケ大会が開催できるようになっているのだろうか。

廊下をさらに進んで左に曲がったところが脱衣室の入口である。脱衣室の前にはマッサージ椅子が1基ある。

脱衣室に入る。脱衣室にはロッカーと籠がある。ロッカーは100円硬貨を投入するタイプだが、100円硬貨は返却されない。100円がもったいないと思う人は、貴重品を持ちこまないようにした方がよいだろう。

浴室は蒸気で真白である。洗い場が5か所と大きな浴槽がある。浴槽は20人は浸かることができそうな大きさだ。洗い場にはリンスインシャンプー、ボディークリーム、固形石鹸が用意されている。よく見れば、椅子と洗面器の数が洗い場の数よりも多い。したがって、洗い場が埋まっている場合は、浴槽から湯をくみ上げて体を洗うことになる。

湯温は最初は熱いと感じたが、慣れてくるとそうでもない。ほぼ適温である。

湯は無色透明。アルカリ性単純温泉で、神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、間接のこわばり、うちみ、くじき、痔疾、冷え性、病後回復期、健康増進、疲労回復に効くという。

コブと新雪との格闘で今日は疲れた。いこいの湯は、それらを十分に吹き飛ばしてくれた。温泉の力は偉大である。

入浴後は、道の駅「田園プラザ川場」へ。

ここはビール工房、ソーセージ工房、パン工房、蕎麦屋、土産物屋など複数の施設が集結する大規模な道の駅だ。全部まわるとかなりの距離を歩くことになるが、自分のお気に入りのショップが見つかるであろう。私のお気に入りはパン工房だ。ここのアップルパイは絶品である。

川場村は首都圏から近い。川場村を身近な「マイ田舎」にすることを勧めたい。



外観

- 名称：川場温泉 いこいの湯
- 所在地：群馬県利根郡川場村川場湯原 482
- 電話：0278-52-2051
- 営業時間：10：00～22：30（最終受付 21：00）
- 定休日：第 2 水曜日
- 入浴料：大人 400 円、3 歳以上小学生まで 300 円、川場スキー場のリフト券提示で各 100 円引き
- サウナ：なし
- テレビ：なし
- 取材日：2012 年 3 月 10 日（土）
- 取材：銭湯愛好会・東京支部